学校通信　令和６年度

しのみや

杉並区立四宮小学校
令和6年9月30日

令和６年度学力調査結果について

主幹教諭　曽木　誠

去る４月に行われた６年生の全国学力調査の結果をお知らせいたします。

この調査は、国が６年生に対し、前学年までの学習内容や生活について調査し結果を集計することで、各校の児童がもつ学習・生活の特徴・強みや弱みを確認し、よりよい学習指導の充実を図ることを目的としています。なお、その中で出てくる用語は以下のような意味になります。

・中央値

得点を順番に並べたときに、ちょうど真ん中にある児童の得点。たとえば５人の点数が、

100 点,100 点,100 点,0 点,0 点　　だった場合、平均点は 60 点、中央値は 100 点。

70 点,70 点,60 点,50 点,50 点　　だった場合、平均点は 60 点、中央値は 60 点。

100 点,80 点,40 点,40 点,40 点　　だった場合、平均点は 60 点、中央値は 40 点。

中央値と平均が同じならば、ほぼ正分布だといえる。中央値が平均よりも高い場合、平均点よりも高い児童が多く、上下の差が大きいということになる。逆に、中央値が平均よりも低い場合、平均点よりも低い児童が多く、上位に離れた児童がいるということになる。平均点だけで見るのではなく、中央値との比較をすることで、学習集団にどんな偏りがあり、どこを中心にフォローしていくべきかが分かりやすくなる。

・標準偏差

平均点からの散らばり具合を表す値。値が大きい時は得点差が大きくまたばらつきがあり、値が小さい時は得点差が小さかったことになる。標準偏差と中央値を総合して分析すると、全体の底上げが必要なのか、下位層に手厚いフォローが必要なのか、上位層にさらなるレベルアップを目指すのかなど、集団の特徴に合わせた指導の指標となる。

・肯定率

４段階のアンケートの指標のうち、肯定的な上位２段階「当てはまる」「やや当てはまる」の比率。無回答および「わからない」はデータに含めない。

【学習面全体において】

・自ら取り組む姿勢や他教科に生かそうとする姿勢など、主体的に取り組む態度は大きく向上した。

・国語、算数の平均点が向上した１つの理由として、学校全体で取り組んでいる子ども主体の学びの影響が大きいと考えられる。子どもの意識調査の結果より、「自分で取り組もうとする」「自分に適した学び方を選べる」など、その子が自ら学びを進めようと意識していることと、それを下支えできるだけの環境（問い、学び方の選択、計画をともにつくる）が大きな要因と考えられる。

・算数の思考判断表現力など、文章や状況を把握して論理的に考える力に課題が見られる。学校での授業ではその子の求めに応じた学習展開になってはいるのだが、友達の考えを聞いて満足してしまっているように思われる。今後、「自分の学びは今、どうなっているのか」をその子自身が把握し、そのためにどうするのか考えるという、自らの課題をつかみ、追究していく力を付けさせていくことが必要である。

令和６年度　全国学力調査結果より

【国語】

平均点	本校 74.0 点	都 70.0 点	全国 67.7 点
中央値	本校 79.6 点	都 71.4 点	全国 71.4 点
標準偏差	本校 3.0/14	都 3.1/14	全国 3.1/14
知識・技能	本校 75.1 点	都 72.6 点	全国 69.8 点
思考判断表現	本校 73.1 点	都 68.4 点	全国 66.0 点

意識調査の肯定率（抜粋）

・国語の勉強は好きですか	本校 58.5%	都 63.0%	全国 62.0%
・国語の授業内容はよくわかりますか	本校 81.1%	都 86.5%	全国 86.3%
・国語の勉強は大切だと思いますか	本校 89.6%	都 93.7%	全国 94.5%
・国語の学習は将来役に立つと思いますか	本校 84.9%	都 91.7%	全国 93.2%

【結果と考察】

・都、全国平均を大きく上回っている。

・平均点よりも中央値が高く、標準偏差が小さいことから、全体的に良い結果が出た児童が多い一方で、下位にフォローが必要な児童が見られる。

・平均点が都、全国に比べると高いのに対して国語が楽しい、よくわかると答える子どもは低い。これは、国語の学習が大切だ、役に立つと思っていない児童が多いためだと思われる。受け身で学ぶのではなく、国語を学ぶ意味を考え、本校の研究である児童が自ら学びを進めようとする取り組みをさらに深めていく。

【算数】

平均点	本校 74.0 点	都 68.0 点	全国 63.4 点
中央値	本校 81.3 点	都 75.0 点	全国 73.7 点
標準偏差	本校 3.6/16	都 3.9/16	全国 3.9/16
知識・技能	本校 81.9 点	都 76.7 点	全国 72.8 点
思考判断表現	本校 62.8 点	都 57.1 点	全国 51.4 点

意識調査の肯定率（抜粋）

・算数の勉強は好きですか	本校 64.2%	都 65.2%	全国 61.0%
・算数の授業内容はよくわかりますか	本校 91.5%	都 85.5%	全国 82.1%
・算数の勉強は大切だと思いますか	本校 94.3%	都 94.7%	全国 94.6%
・算数の学習は将来役に立つと思いますか	本校 94.4%	都 93.4%	全国 94.1%

（参考）１学期に実施した。東京都ベーシックドリル（5 年生までの学習の振り返りテスト）

正答率：	本校 63.7%	都 61.6%

【結果と考察】

・都、全国平均を大きく上回っている。

・算数が楽しいと感じている子どもは都、全国とほぼ同じである。

・平均点よりも中央値が高く、また標準偏差が大きくなっていることから、全体的に学力が身に付いているものの児童の学習理解に大きな個人差があり、学習をすすめるのに困難がある児童がいる。

・習熟度別少人数指導を行っていることから、学習理解に差がある児童への個別最適化学習指導を行うことができ、授業内容がよくわかるという肯定率の高さにつながっている。

アンケート調査（全 41 項目）から、本校で特徴的なものを抜粋

		令和 6 年度				肯定率
		当てはまる	やや当てはまる	やや当てはまらない	当てはまらない	
自分には、よいところがあると思いますか	本校	50.0	38.7	7.5	3.8	88.7
	都	47.4	37.1	9.8	5.6	84.5
	全国	43.4	40.7	10.5	5.4	84.1
学校に行くのは楽しいと思いますか	本校	41.5	40.6	9.4	8.5	82.1
	都	48.6	35.7	10.2	5.4	84.3
	全国	47.2	37.6	10.2	5.0	84.8
困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	本校	22.6	31.1	33.0	13.2	53.7
	都	33.0	34.8	21.0	11.1	67.8
	全国	30.2	36.9	22.2	10.6	67.1
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	本校	30.2	40.6	18.9	10.4	70.8
	都	32.2	42.1	19.1	6.6	74.3
	全国	30.3	45.5	18.6	5.5	75.8
5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	本校	44.3	49.1	5.7	0.9	93.4
	都	32.3	49.5	15.3	2.8	81.8
	全国	29.5	52.4	15.6	2.5	81.9
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか	本校	47.2	35.8	14.2	2.8	83.0
	都	43.0	42.7	10.6	2.7	85.7
	全国	41.4	44.9	10.5	2.3	86.3
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	本校	32.1	47.2	16.0	4.7	79.3
	都	33.0	46.3	16.8	3.8	79.3
	全国	31.9	48.9	16.0	3.1	80.8
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	本校	62.3	32.1	3.8	1.9	94.4
	都	47.3	42.9	7.6	2.1	90.2
	全国	47.8	43.8	6.7	1.6	91.6
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	本校	32.1	36.8	23.6	6.6	68.9
	都	35.6	45.2	15.0	4.1	80.8
	全国	34.9	47.6	14.2	3.2	82.5
学校の授業時間以外に、普段（平日）、一日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（塾や家庭教師、オンライン学習を含む）	本校	平均 104 分				
	都	平均 98 分				
	全国	平均 81 分				
学校が休みの日（休日）、一日当たりどれくらいの時間勉強をしますか（塾や家庭教師、オンライン学習を含む）	本校	平均 104 分				
	都	平均 98 分				
	全国	平均 81 分				

【考察】

・自己肯定感の高い子どもが増加した。都、全国に比べても高い傾向にある

・豊富な学習時間が学力の裏付けになっている。

・友達に認められることや周囲と違ってよいといった自己肯定感が少しずつ高まっている。道徳の学習をはじめ、学校行事やクラス行事、日々の授業を通して、教師や周囲の友達がその子を認めようとする発言やアウトプットを行っていることが要因として考えられる。特に、子どもを共感的に見取るという教師の意識が改善され、基準に合わせるのではなく、その子の世界観で物事を見ようとする場面が多くなった。

・協力して学校で学習活動や生活ができる一方で、違う意見が出た時に相手の意見を受け入れたり、話し合うなどして中身を深めたり争ったりということを避ける傾向がある。また、そこで困ったときに相談する手立てが取れない児童が多い。SOS の出し方など、困りごとをうまく表せるような働きかけを今後もすすめていく。